

令和元年度 町政懇談会 対応状況

No.	内 容	回答・対応状況
1	道路行政について、町長自ら車で通って確認してほしい。 小坂区の町道3083号、早急に整備してほしい。舗装が無くても、幅員があればよいが。	道路の整備については職員数に対し事務が膨大で追いついていない路線もあります。 ご指摘のとおり、舗装の無い道路であればコストは抑えられると思います。
2	町に「来る人」だけでなく、「今いる人」にも注力してほしい。 特に道路は「住みよい町」には必須ではないか。	道路行政、力を入れて取り組んでいきたいと思っています。
3	平成23年の地震災害時、食料配布の場面で区長として活躍できなかった。 災害時の区長の役割を明確化してほしい。	避難行動要支援者の支援について検討中であり、その際には区長の協力を得ることになると思います。 また、自主防災組織がある区はその中で区長の役割等を予め定めていることが多いようです。
4	防災無線による音声放送がよく聞こえず、災害情報が把握できなかった。 周知方法を考えてほしい。	災害情報を早期に周知できるよう、ホームページや防災行政無線、一斉配信情報メール、SNS等を活用した情報発信の仕組みを検討していきます。
5	災害後、窓口での被災者支援制度の説明に不備があり、手続きに手間がかかった。	災害直後は国や県の制度決定前で明確にお答えできない内容がありました。 ご不便をおかけしたことお詫び申し上げます。
6	災害時の自家用車の避難場所として、駐車場の用意があるとよいが。	町では災害が発生し、また発生するおそれがある場合に、その危険から逃れるための避難場所として指定緊急避難場所を指定しているので利用していただきたいと思います。
7	今後、水害が発生しないよう必要な整備をしてほしい。	堤防の整備等について、国や県に要望を続けていきます。
8	住宅応急修理制度は国の制度なので条件が画一的で配慮に乏しい。 そこを埋めてくれるような町独自の補助が欲しい。	今回半壊以上の世帯につきましては、災害見舞金を1万円から25万円に増額しました。 町単独の補助で、用途制限もありませんので、こちらを充てていただければと思います。
9	赤沢江沿線では、倒木が多く通行を阻害している。適正に管理されたい。	倒木は管理すべき地権者に通知していきます。 また来年度は一部の緊急危険箇所について撤去を実施する予定です。
10	災害で自宅設備が利用できない方向けにホールの湯の無料開放期間を延長してほしい。	床上浸水以上の被災町民を対象として10月26日まで入場無料にしたあと、11月30日まで無料期間を1か月延長しました。
11	自動車がない人もいるため、災害廃棄物の沿線回収の期間を延長してほしい。	自宅前回収の長期実施は、非災害廃棄物の便乗投棄に繋がりがやすすいため、バランスを見て20日間ほど期間を延長しました。
12	土砂の洗浄で水道料の負担が大きい。使用料に配慮がほしい。	10・11月分について、昨年度の同月使用料から超過した分を減免する措置を取りました。
13	磯野地区環境センターからの煙害を受けている。次回については移転で検討されたい。	安渡地区・磯野区の両地区には感謝しています。 新環境センター建設についても、10月10日に着工しました。 この次の計画については記録で後任に残したいと思っています。
14	石塚西B区の下水道敷設について、具体的な時期を知りたい。	業者との契約まで済んでいて、3月末までに水道を移設し、下水道については6月末完了を目途に準備をしています。
15	マイカー急発進制御装置については、今後需要増が見込まれる。町として補助はできないか。	安全協会の補助実施に加え、国の補助の動きがあるようなので見極めて検討したいと思っています。
16	震災以降、123号線沿線の振動がひどい。震災で傷んだ地中の管が原因とみている。 水戸土木事務所等と相談し、ボーリング調査など、原因追及・調査をされたい。	水戸土木事務所に実態を相談したいと思っています。
17	藤が原～増井のダンプカーの通行が多く振動が大きい。磯野も同様である。 公道であると通行禁止にすることは困難なのか？	勝見沢のルートに規制がかかり、青山ルートになってきているものと思われます。 笠間警察署に相談し、パトロールを強化してもらいたいと思います。
18	広報紙への人口動態には、出生数も載せて危機感を知らせるべきではないか？	掲載する場合、転出など他の項目の併記についても検討する必要があると考えます。 今後デザイン変更の際に、新規項目として検討したいと思っています。
19	乗用田植機への軽自動車税申告課税の理解が浸透していない。	制度周知の広報をしていますが、まだ浸透していないようです。 住民税の申告相談会場で再度喚起するほか、販売店等にも協力を要請する予定です。 また、車体に掲示できる登録済証の交付についても検討していきます。
20	七会地区の河川について、先の災害ではコンクリートの堆積物が水田に流入したり、川床の上昇で溢水があった。川床の採掘と堆積物置き場の確保が急務である。また、護岸整備も要望したい。	河川については、県の事業であるため県に予算化をしっかりと伝えたい。 残土用の場所については、検討委員会において残土処理場整備促進計画について検討し、進めていきたいと思っています。

21	一斉放送の女性の声がか細くて聞き取れない。もっとゆっくり話してほしい。フリーダイヤルで緊急放送が聞けないことがあるので、全部を確認できるようにしてほしい。	七会地区の一斉放送は機械による音声読み上げとなっており、現段階では調整が利きません。フリーダイヤルは緊急放送に対応していない場合があるので、今後検討します。
22	合併して年月が経ち、〇〇地区という意識は薄れてきていると感じている。いくつかある区長の回りの定期的な役割の充て方は廃止した方がよいのでは？	区長会長の選考については、平成17年度の区長会総会から役員選出を3地区の選考輪番制で決める流れがあるようです。協議結果については回答する立場になく差し控えたいと思います。
23	区長を拝命し地区600世帯の代表として活動しているが、要望が聞き入れられないことが多い。具体的には、家庭の日作文図画コンクール審査員になれなかったこと、沢山小学区祭典の中止連絡に防災無線を利用させてもらえなかったこと。	審査員の選考については青少年育成城里町民会議幹事会における協議結果ということで、回答する立場になく差し控えたいと思います。学校祭典の中止連絡の件については、防災無線の運用細則に当たらないため、ご理解をお願いいたします。
24	町長自身が議会から告訴されていることについて、現状は。	議会も大切だが、住民への注力がベストだと思っています。
25	消防団員として。台風19号による災害時に、道の駅に団員が余っていた。坏と那珂西坂下の災害情報がなく連携の点で疑問が残った。	消防団内部の指揮命令系統について、今回の課題を踏まえ改善方法を検討します。情報伝達手段についても、整備や運用方法について検討を進めていきます。
26	自分は消防団員なので、主要橋梁の通行不可などは把握できたが、一般の人は情報がなく困っていたのではないか。	災害情報については、消防団員を含め一般住民にも周知できるよう、ホームページや防災行政無線、一斉配信情報メールなどの活用を検討します。
27	町指定文化財「黒澤止幾生家」保存について進捗状況はどうなっているか。	3月に歴史民俗史料館(黒澤止幾生家)保存活用計画が策定されます。策定後、住民の皆様にも内容を公表しますので、ご意見等をお寄せください。
28	地球温暖化対策と、町のPR効果を兼ねたSDG's(森林保護目的の間伐、排出木材のエネルギー利用)について。国庫補助もあるので検討してほしい。	森林譲与税の使い道について、これから検討していきます。
29	旧線路道について、旧岩船駅箇所の交差点舗装に伴い、常北側から走行してきた車両に一時停止を喚起する路面の錐が撤去されたために交通事故の発生が増加したように感じる。改めて錐の設置してほしい。	高久方面から下ってくる方が優先車両です。土手に防草シートを敷設し以前より視界が確保されました。また、路面についてはチャッターバー(錐)を設置しました。
30	桂支所に提出した区長要望書は「本庁に持っていただけ」と言われ、その後何故か都市建設課に届くまで時間を要したようである。支所で受付し、通し番号をとる手順に改めてほしい。	書類の授受と同時に話が聞けるよう、要望書などはできれば本庁担当課まで提出をお願いしたいと思います。手違いについては申し訳ありませんでした。
31	数千万円はかかるの見込まれるが、役場業務にワークフローを導入してみたいか。また、まちづくり戦略課に予算が集中し、事業課化している。区民交流や農産物販売の事業などは教育委員会や農業政策課に業務を割り振りするべきではないか。	平成29年の行政組織の見直しで、事務の効率化を図るために現在の体制としました。今後もより効率的な業務の改善に努めたいと考えています。
32	少子高齢化が著しい。町として「30年後も城里町が必ずある」と言えるようにするにはどうするか？とにかく人がいない。女性が来ない。まちづくり戦略課が手を打たないといけない。	当町は県内トップクラスの子育て支援を展開しています。また地域おこし協力隊を積極的に雇用するなど、移住も推進しています。30年後については悲観していません。
33	4人の子供の進学を機に水戸に転出も考えている。町長が20年後も頑張ると明言できるなら住み続けるが。現実、3、4年先も問題である。町長の経験談・人生観ではなく、これからの子育ての問題として回答してほしい。	幸福論の話になるが、高学歴＝幸福ではないと考えます。東京と城里では子育て費用を含めた費用面が全然違います。
34	小さい町予算から捻出する予算なのに、江戸川区やモンゴルとの事業に掛け過ぎではないか。	江戸川区については、全体像で話す区民祭で1日2、3百万円売り上げてくる実績があり、その他のお祭り等にも出店させてもらえるのは城里町が交流都市だからこそ可能な事です。利益については生産者に還元されています。
35	孫根～岩船間の町道に不法投棄が散見される。対策はしているのか。	防犯カメラの設置やパトロールなど監視体制を検討していきます。
36	ビーライン整備について、県に町長が出向いたと聞いているが、何らかの予算がついたのかどうか。	県予算は増額されたと聞いています。
37	空き家対策は進んでいるのか。	町の空き家バンクにこれまで10件登録があり、3件売買成立しています。まずは空き家バンクへの登録を推進していきます。
38	町外の方に向けてホロルの湯やふれあいの里の利用促進に力を入れているが、これによる町民へのメリットとは。	ふれあいの里については、平成26年度までは指定管理料に追加が必要でしたが、経営の改善や利用者の増加等により、平成27年度からは追加はありません。その分は町の予算を福祉など他の使い道に回せすし、ホロルの湯は元来住民の健康増進のための施設なので、健康を手に入れていただき、医療費や介護費用の削減につなげたいと考えます。またレストランで使われる原材料を城里産の農産物に切り替えることで、生産者に還元されています。